

ビードルとテータムが実験材料として用いたのはアカパンカビとよばれる子囊菌類（菌界）の一種である。

下に、遺伝学の実験材料として同じく良く用いられるショウジョウバエのデメリットと併記する形で、アカパンカビのメリットを列記しておく。

アカパンカビのメリット

生活環のほとんどで単相（一倍体）なので、劣性の突然変異がそのまま形質として現れる。

形質が単純。

X線や紫外線で突然変異を誘発しやすい。

増殖しやすい。

（子のう胞子が一列に並ぶ）

ショウジョウバエのデメリット

複相（二倍体）なので、劣性の突然変異の観察が困難。

形質が複雑。